

多摩ジェンダー教育ネットワーク 第14回-17回会合 2013年3月28日～2014年1月23日

主催：国際基督教大学ジェンダー研究センター（CGS）加藤恵津子、田中かず子
一橋大学ジェンダー社会科学研究センター（CGraSS）木本喜美子

2009年11月に発足、第1回の会合を開いた「多摩ジェンダー教育ネットワーク」（以下「ネットワーク」）は、専任・非常勤を問わず、多摩地区の大学でジェンダー教育に携わる人々の「人間関係」です。ジェンダー関連科目はあっても、ジェンダー教育がプログラムや専攻として制度化しにくい日本の諸大学にあって、その教育に携わる人々は孤立しがちです。当ネットワークはそのような人々をつなぎ、経験、スキル、そして直面している問題点を分かち合うことで互いをエンパワーすべく始めました。これには「顔の見える」関係づくりが重要と考え、まずは行き来のしやすい多摩地区の大学教員をメンバーと定めています。

今年度より、多摩市男女共同参画担当職員の方々のご厚意により、TAMA女性センター（京王線 聖蹟桜ヶ丘駅 目の前）をメインの会場とし、地域により開かれたネットワークを目指すようになりました。今年度の報告はすべてメンバーによるもので、テーマも「身体」「ワーク・ライフ・バランス」「歴史」と多彩でした（以下、敬称略）。

〈第14回会合〉

日 時：3月28日（木）、19:00～21:00

テーマ：身体とジェンダーの関係をどのように教えるか

発表者：発表者：合場敬子（明治学院大学）

場 所：TAMA女性センター

参加者：13名

自らが担当する社会学系・ジェンダー系の講義を例としつつ、理想の女性身体を女性たちが求めるよう働いている「社会的な力」、女性のスポーツ活動を

奨励しない「社会的な力」に向けて、学生たちの気づきを促す試みが紹介された。また自身による女子プロレスラー研究の成果を、どのように女子学生たちのエンパワーメントにつなげるかについても、実践的な報告をいただいた。

〈第15回会合〉

日 時：7月4日（木）、19:00～21:00

テーマ：ワーク・ライフ・バランスの日米比較、および職場と家庭の両立しやすさが出産・就業に与える影響

発表者：山谷真名（公益財団法人21世紀職業財団研究員、東京女学館大学他）

場 所：TAMA女性センター

参加者：13名

お茶の水女子大学「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」研究プロジェクト（代表・永瀬伸子教授、2009～2013年）で実施された調査から、まず帰宅時間、労働時間の柔軟性、ワーク・ライフ・バランスの満足度、育児役割意識についての日米比較結果を、次に日本における仕事と家庭の両立のしやすい職場の、出産や就業継続に対する効果についての検証を、ご報告いただいた。

〈第16回会合〉

日 時：10月31日（木）、19:00～21:00

テーマ：ファシズム期への女性層の掌握と戦時体制の語り

発表者：井上恵子（早稲田大学・白梅学園大学）

場 所：TAMA女性センター

参加者：13名

明治期生まれの福祉団体だった婦人団体が、第二次大戦の戦時下、次第に国家＝軍事政権に取り込まれていく流れを、豊富な史料をもとに説得的に論じた。また一般市民による戦時体験の語りの価値についてもあらためて指摘された。東日本大震災以降の防災奨励におけるジェンダー関係と比較をしながら、活発な議論が交わされた。

〈第17回会合〉

日 時：2014年1月23日（木）、19：00～21：00

テーマ：少年少女雑誌における文字の文化について

発表者：今田絵里香（成蹊大学）

場 所：TAMA女性センター

参加者：名

近代日本の少年少女雑誌における文字の文化、すなわち読むこと/書くことが、「少年」「少女」と呼ばれる社会的集団の形成や維持に果たした役割が、1910年代以降の少年雑誌、少女雑誌の読者投稿文やイラストなどを通して、明快に論じられた。学校化の進んだ「少年」と、そうでない「少女」の間で、雑誌の持つ意義が異なったなど、示唆に富む多くの指摘があった。

本ネットワークも開始より4年が経ちました。TAMA女性センターでの開催はアクセスもよく、参加者からおおむね好評です。また出版社の方にご参加いただくなど、よりアカデミアの外へとつながるネットワークになりつつあります。お問い合わせ、ご参加希望はCGSまでお寄せ下さい。

加藤恵津子

**From 14th to 17th Meetings of the Tama Gender Education
Network 2013
March 28, 2013 – January 23, 2014**

Hosts: Etsuko Kato, Kazuko Tanaka, Center for Genders Studies (CGS), ICU
Kimiko Kimoto, Center for Gender Research and Social Sciences
(CGraSS), Hitotsubashi University

The Tama Gender Education Network (hereafter “Network”) is an association of full-time and part-time teachers who teach gender-related courses at universities in Tama district. The Network was launched in November of 2010. The Japanese academic environment, which discourages the institutionalization of gender studies, tends to cause teachers of this academic area to be isolated from each other. The Network’s goal is to support the teachers and empower them by providing opportunities to share their experiences, teaching skills and the many hardships they face. In order to enhance face-to-face relationships, the Network started within the district of Tama.

This year’s meetings had various presentations with themes including the body, modern history of women and girls, and work-life balance. Additionally, the Network began gathering in TAMA Women’s Center this year, under the generous auspices of the gender equality promotion section of the Tama municipal government. The Network hopes to contribute further to our local communities in the future.

For inquiries about past and future meetings or membership, please feel free to contact us at: tama.gender.education@gmail.com

Etsuko Kato